様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　５ 月 ２０ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｈ０２２４８

研究課題名（和文）東アジアにおける拡張現実時代の観光に関する研究

研究課題名（英文）Research on Tourism in East Asia in the Era of Augmented Reality

研究代表者
山田　義裕（Yamada, Yoshihiro）

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・教授

研究者番号：４０２００７６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　5,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の研究成果は以下3点にまとめられる。第１はフィールド調査等による現在の観光とメディアの融合状況の実態把握である。ネット空間と現実空間、メディアと観光が融合している現在の状況について、東アジアの各地域でのフィールドワークを通じてその実態を把握した。第2はメディア言説（画像・映像・サウンドも含む）の観点から観光行動を調査し計量的および質的に分析した。第3は上記２つの調査を総合的に考察する際の枠組みについて、場所論や情報メディア論の観点から理論的考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
Urry（2007）による「バーチャルなつながりは，さらに多岐に渡るローカルなつながりを促し，それゆえに，多くの身体の旅を減らすのではなく促すことにもなる」という仮説がこの研究により経験的に実証されたことは、観光分野の研究にとって大きな学術的な意義を持っている。また社会的意義としては、観光先進地で大きな問題となっている「観光公害（overtourism)」が何故この10年ほどで急速に問題化したのかについて、情報メディアの観点からひとつの回答を提示することで問題の解決につなげる可能性を示したことである。

研究成果の概要（英文）：The outcome of the present study can be summarized in the following three points. The first is to understand the current situation of the fusion of tourism and media through fieldwork. Carrying out fieldwork in East Asia, we have grasped the current situation in which the virtual world and the real world, or media and tourism are being fused together. Secondly, we investigated media discourse about tourism and analyzed quantitatively and qualitatively. The third was a theoretical study on the framework for considering the above two surveys from the perspective of place/space theory and information media theory.

研究分野：観光コミュニケーション研究及び情報メディア研究

キーワード：観光　メディア　情報　拡張現実　東アジア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究が対象とする Web2.0 以降の情報環境と観光の関係について、当初の社会的及び学術的な背景を二つの観点から述べる。2000 年代以降の情報空間の変容に関する既往研究では、その質的な変化に伴い顕在化した二つの社会的事象に焦点が当てられてきた

（１）一つ目は、ネット空間における「参加型文化（participatory culture）」の隆盛である（Jenkins 2006）。その背景には、Tim O'Reilly が提唱する Web2.0 という集合知創出のための新たなウェブコンセプトが，Twitter や Facebook といったソーシャル・メディアの仕掛けと結びつくことで，インターネットの利用が新たな段階に進んだことがある。この過程でインターネットは当初の「巨大データベース」から「ソーシャル・メディアのプラットフォーム」へとドラスティックに変化した。そうした変化が他者関係に変化をもたらし、ネット上での双方向コミュニケーションと協働創作活動が活性化することで、ネット上でのオタク系文化の二次創作などの参加型文化の普及につながってきた（山田 2013）。

（２）二つ目は、ネット空間におけるコミュニケーションや創作活動が現実空間へと浸透する拡張現実的状況である。上記(1)の参加型文化の隆盛はネット空間に留まらず、十数年の間に次第に現実空間へと浸透してきた。具体的には、コスプレ・イベントなどのオタク系文化や、ロックフェスなどの文化活動、さらには「アラブの春」や Occupy Wall Street などの社会運動もその事例として挙げられる。先行研究では、これらの現象はゼロ年代に入ってから虚構のリアリティが「仮想現実（Virtual Reality: VR）」から「拡張現実（Augmented Reality: AR）」へと質的に変化したことの現れと仮定されてきた（宇野 2011）。このような「閉じられた仮想空間」という仮想現実から「ネット空間の現実空間への浸透」という拡張現実的な変化が、一見するとネット空間と関係が薄いように見える観光実践において特に 2000 年代以降に顕著に見られるようになってきた。例えば、若者たちはネット空間でのコミュニケーションをきっかけに、アニメ聖地巡礼やパワースポット巡りなどの観光活動に参加する傾向が強くなっている。

２．研究の目的

本研究の目的は、インターネットの普及によって情報空間の拡充が加速した 2000 年代以降の社会において、他者関係および場所が持つ特性がいかに変容し、それが現代の観光実践および観光言説にいかなる影響を与えてきたのかを明らかにし、複雑化する現代の観光のあり方を領域横断的に論じ、新たな理論モデルを提示することである。

「拡張現実化する観光のあり方を明らかにする」という目的を達成するために三つの研究課題を設定した。まず第一に、現実空間の側からネット空間の影響を明らかにするためにコンテンツツーリズムおよび巡礼ツーリズムに関する現地調査を実施する。そうすることで、情報メディアの拡充に伴う対人関係の変容とホスト／ゲスト双方による観光文化の共創の実態を明らかにする。第二に、ネット空間側から現実空間への影響を明らかにするためにネット上で発信される観光とメディアに関する言説の分析を行う。そうすることで観光現場のリアリティがいかに変容したのかを明らかにする。そして第三に、これら上記二つの課題の研究成果を統合し、拡張現実時代における場所性の変化を踏まえた観光に関する理論的研究を行う。この理論研究を通じて、ネット空間と現実空間が重なり合いながら観光文化が変容する過程を明らかにすると共に、ホスト／ゲスト双方における観光現場の場所性と両者の交流によるその変化を分析することで、拡張現実化する現代の新たな観光を理解するための理論的枠組みを構築する。

３．研究の方法

上述した 3 つの課題の解明を目指し、本研究では 3 年間をかけて、それぞれの課題に対応した調査研究を行った。主な研究方法は次の 2 つである。

（１）第一は、拡張現実時代のツーリストたちの観光行動の実態を探るためのフィールドワーク、そしてツーリストたちの意識や体験の意味づけを明らかにするためのインタビュー調査である。具体的には、アニメ聖地巡礼研究、中国の回族コミュニティについての研究、パワースポット・ブームを事例とする研究等の事例について研究を進めた。

（２）第二は、観光およびメディア言説の収集・整理とその分析である。具体的には、映画等の映像メディアと平和観光を事例とした研究、三国志に関するメディアと聖地巡礼の関係を分析した研究、音楽メディアと平和観光に関する事例等について研究が進められた。

（３）上記二つの研究法を併用することで、現実空間とネット空間の接合領域での観光体験や観光文化、および多重化した場所のリアリティが観光行動とメディア言説の双方のレベルにおいて明らかになった。さらに、合同の研究発表会で研究分担者による成果報告と討論を行い、その成果を国内外の学会および学会誌で発表すると共に、一般向け国際シンポジウムへの参加や市民講座の開催を通じて研究成果を社会に還元した。

４．研究成果

本研究の目的は、Web2.0 以降の新たな情報環境の中で対人関係と主体の在り方および場所の特性がいかに変容し、それが現代の観光実践および観光言説にいかなる影響を及ぼしているのかについて、特に東アジアにおける観光とメディアの融合状況にフォーカスし、フィールドワーク等により調査・分析を進めることで明らかにすることであった。Urry (2007)が「バーチャルなつながりは，さらに多岐に渡るローカルなつながりを促し，それゆえに，多くの身体の旅を減ら

すのではなく促すことにもなる」といみじくも述べたように、情報機器の高機能化や情報通信環境の充実によってネット空間における多様なコミュニケーションが活性化することにより、私たちの物理的移動や身体的交流への欲望はますます強くなった。とりわけ東アジアにおいては、石森（1993）が予言した「第 4 次観光革命・アジア観光ビッグバン」によるかつてないほどの国際観光客の急増が現実のものとなっている。

（１）本共同研究では、まず研究代表者・分担者が手分けをして、ネット空間と現実空間、メディアと観光が融合している現在の状況について、東アジアの各地域でのフィールドワークとメディア言説（画像・映像も含む）調査を通じて実態の把握を試みた。いくつか具体的な事例を挙げると、中国雲南省昆明市における回族オンライン／オフライン・コミュニティにおける情報メディアと観光との関係についての調査、同じく中国湖北省における三国志のアニメ・映画等のメディアとツーリズムの関係についての調査、台湾台北市での暗渠探索のまち歩きに関する実地調査、韓国済州島における「済州オルレ」とダークツーリズムに関する現地調査、日本においても、熊本県人吉球磨の海軍遺産を対象とするバトルフィールド・ツーリズムに関する調査や各地のパワースポットのフィールドワークを通じた観光と宗教の関係についての調査等々がある。また、メディア言説（画像・映像・サウンドも含む）の観点から観光行動を考察したものとしては、Trip Advisor の口コミ投稿の計量的・質的分析に基づくピース・ツーリズム研究（外部講師との共同研究）、インスタグラムの写真データを計量的・質的分析し「拡張現実」（宇野 2011）や「多孔化」（鈴木 2013）により分析した研究、K-POP を対象とするポピュラー音楽と都市の観光空間に関する研究等が行われた。そして、これらの事例を総合的に考察する際の枠組みについての理論研究としては、聖地巡礼ツーリズムの観点からみた観光と現代宗教の関係についての研究、オートモビリティの時代における場所認識に関する研究、コンテンツ・ツーリズム研究における'contentsization'概念に関する理論的考察、ビックデータ・AI 時代の「偶有性」に関する観光創造の他者論研究等がある。

（２）これらのケーススタディや理論研究の成果を当初の計画に従っていくつかの形で公開した。

①最終年度に一般市民向けの公開講座を開催し、研究成果を社会へ向けて還元した。具体的には、研究代表者の所属先である北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院が主催する公開講座のプラットフォームを活用し、「観光とメディアの新たな出会い」というタイトルで 2019 年 9 月 25 日から 10 月 30 日までの期間、研究代表者および研究分担者による合計６回の講義を行った。受講対象は一般市民で、50 名の受講生へ向けて講義および質疑応答を実施した。各講義の具体的なテーマを列挙すると、「観光、メディアそして拡張現実―ネットと観光をつなぐもの」（第１回）、「拡張する観光のまなざし―メディアが作る聖なるもの」（第２回）、「オンライン・コミュニティによる観光実践―観光が生み出す社会的つながり」（第３回）、「リズムを消費する―ポピュラー音楽が創る観光空間」（第４回）、「拡張し続ける＜物語世界＞へダイブせよ―コンテンツツーリスト実践と重層化する世界」（第５回）そして「見えない都市をたずねて―まち歩きのかたち」（第６回）である。

②本共同研究を通じた関連研究分野への貢献として観光とメディアをテーマとする書籍の商業出版（12 月刊行予定）の準備を進め、すでに出版元や執筆者も決定し、12 月の刊行へ向けて動き出している。書籍のタイトルは『拡張現実時代の観光とメディア』（仮題）で、執筆者は研究代表者と研究分担者全員および本共同研究の研究会にゲストとして話題提供・ディスカッションに加わった外部講師も何名か含まれている。この論集においては、本共同研究の研究成果を有機的に結び付け、Web2.0 に代表される新たな情報空間が爆発的に拡大し、グローバル化が急速に進む現在、観光とメディアの融合により新たにどのような人間主体、他者関係あるいは場の認識が生まれ、それが社会にどういったインパクトをもたらすのかについて多角的に議論する予定である。

③本研究の研究代表者および研究分担者は、この 3 年間で多くの国際シンポジウムや国際会議に参加し、講演やディスカッションを行ってきた。以下では、特に 2017 年に開始した本共同研究とピース・ツーリズム研究とを架橋する試みについて、国際シンポジウムに関する成果を中心に報告する。まず、2017 年 12 月 7 日に北海道大学において「平和観光研究の可能性」と題する国際シンポジウムを開催された。北海道大学メディア・ツーリズム研究センターの他、ソウル大学平和統一研究院、広島大学平和センターが参加し、東アジアにおける観光研究と平和研究の融合について活発な議論を行った。また、翌年は開催場所を韓国の済州島へと移し、「4・３事件」70 周年記念事業の一環として催された国際シンポジウム「Island and Peace Forum: the Cold War Landscape and Peace in Northeast Asia」に参加、研究代表者と研究分担者による発表およびエクスカーションとして催されたダークツーリズム・ツアーに同行して東アジア各国の研究者と意見交換を行った。さらに、2019 年は広島大学平和センターの主催（広島平和文化センター，広島国際会議場，広島平和記念資料館，北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院，ソウル国立大学が共催）により開催された国際シンポジウム「「Hiroshima とピース・ツーリズム」（2019 年 7 月 20 日）において研究代表者（山田）が招待講演を行い、翌 21 日に開催された国際会議「「Weaving Peace through Heritage Tourism」にて研究分担者の一人（金）が研究発表を行った。

（３）最後に、本共同研究の成果が今後どのような方向で発展する可能性があるか、その展望について述べる。2020 年 1 月に中国の武漢でヒトからヒトへの感染が確認された新型コロナウイ

ルスは、東アジアからヨーロッパや米国などにも拡大し、3 月に世界保健機構（WHO）もパンデミックという認識を示した後も感染拡大が急速に進み、2020 年 5 月段階で収束の目処は全く立っていない。このような状況で、私たちの物理的移動や身体的交流は「ソーシャル・ディスタンス」を合い言葉に、厳しく制限される状態が続いている。もちろん、旅行、宿泊、旅客等の観光関連産業はほとんど開店休業状態で、経済的損失は計り知れないものになると危惧されている。果たして、この後の「ポスト・コロナ」時代に人は再び国境を越えて観光の旅に出かけるのであろうか。人がまた移動を始めたとき、私たちはそこに新たに何を求めるのであろうか。移動が厳しく制限される中で、逆にネット空間での交流はテレビ会議システム等の活用により爆発的に増加し、例えば大学などの高等教育機関の授業は殆どすべてが対面からオンラインへと移行している。これまで ICT を活用したこともない教員も含めて、殆ど全ての教員と学生がネット空間でコミュニケーションを取り合いながら授業を行っている。教育現場だけでなく、社会のあらゆる領域において同様のことが生じている。「ポスト・コロナ」はコロナウイルスの消滅を意味しない。この 20 年の間に、人類は SARS、MERS に続いて 3 度目の新たなコロナウイルスである Covid-19 の襲来をパンデミックという最悪の形で経験したのだが、この先も新種のウイルスが比較的短いスパンで繰り返し現れる可能性は決して低くない。とするとポスト・コロナ時代というのは、私たちがこの疫病との共存を模索しながらライフスタイルを変化させていく時期ということになろう。観光とは、端的に言って、物理的移動と身体的交流であるが、ポスト・コロナ時代においては、私たちは無邪気にこれを享受できなくなる可能性が高い。果たしてこれは、観光にとって暗黒の時代の到来を意味するのであろうか。上述のように、Urry (2007)はバーチャルな交流は身体の交流を促進すると考えた。その理由は、ネットでのコミュニケーションが対面の交流への欲望をかき立てるからである。Urry の仮説が正しいとすると、ポスト・コロナ時代にたとえ現在のような移動への制限が続いたとしても、物理的移動と身体的交流への欲望が私たちから消えることはなく、逆にそういった移動の制限や交流への抑圧に反発するかのように、それは生身の人へと向かう強い衝動として立ち現れるのではないかと予想される。「拡張現実の時代のツーリズム」という本研究のテーマは、「ポスト・コロナ時代におけるネット空間のバーチャル・コミュニケーションと現実空間の身体的交流の新たな関係の考察」という新たな課題へと発展させることが可能と考えられる。

＜引用文献＞

石森秀三，1993，「ネオ・ノマド（新遊動民）の時代人はなぜ旅するのか」高田公理・石森秀三編『「新しい旅」のはじまり――観光ルネッサンスの時代』PHP 研究所，13-46.

Jenkins, Henry, 2013, Convergence Culture: Where Old and New Media Collide. New York University Press.

鈴木謙介，2013，『ウェブ社会のゆくえ――＜多孔化＞した現実のなかで』NHK ブックス.

宇野常寛，2011，『リトル・ピープルの時代』幻冬舎.

Urry, John, 2007, Mobilities. PolityPress.（吉原直樹・伊藤嘉隆訳，2017，『モビリティーズ――移動の社会学』作品社.）

山田義裕，2013，「拡張現実の時代における「他者との出会い」に関する一考察 」石森秀三，西山徳明，山村高淑編『観光地域マネジメント寄附講座 10 周年記念 観光創造学へのチャレンジ』CATS 叢書（観光学高等研究センター） 第 11 号：39-46.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 山田義裕	４．巻 39
２．論文標題 拡張現実の時代における自由と偶有性――インターネットが私たちから奪うもの	５．発行年 2019年
３．雑誌名 The Northern Review（北海道大学英語英米文学研究会）	６．最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 門田岳久	４．巻 299
２．論文標題 インターセクションとしてのジェンダー研究――ベアーテ・ビンダー論文に寄せ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本民俗学	６．最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 門田岳久	４．巻 128
２．論文標題 「枠」を出る現代の観光――「おもてなし」の呪縛を超えるために	５．発行年 2019年
３．雑誌名 地域文化（公益財団法人八十二文化財団）	６．最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 内田純一，西村友幸	４．巻 2019夏号
２．論文標題 テーマコミュニティ――観光・地域の魅力をつくるコミュニティ感覚	５．発行年 2019年
３．雑誌名 人間会議	６．最初と最後の頁 186-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 内田純一	４．巻 73(10)
２．論文標題 地域資源ベースのデスティネーション戦略	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Monthly 信用金庫	６．最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金ソンミン	４．巻 2019年9月号
２．論文標題 日本における韓流・韓流における日本	５．発行年 2019年
３．雑誌名 GALAC	６．最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 OKAMOTO, Ryosuke	４．巻 -
２．論文標題 Practicing without Believing in Post-Secular Society: the Case of Power Spot Boom in Contemporary Japan.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ヨーロッパの世俗と宗教	６．最初と最後の頁 94-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 門田岳久・石野隆美	４．巻 21
２．論文標題 論文標題:宗教空間の経済的管理に関する基礎研究：聖地における料金徴収の民族誌的データから	５．発行年 2019年
３．雑誌名 立教大学観光学部紀要	６．最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 金ソンミン	4．巻 730
2．論文標題 BTSという共通善とファンダム－K-POPの「ソーシャルメディア的想像力	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ユリイカ	6．最初と最後の頁 111－118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 NARA, Masashi	4．巻 -
2．論文標題 A Change in the Ethnicity/Religiosity of the Hui People and Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Proceedings: International Symposium "Ethnicities in China and their Interaction with Global Society in the era of BELT and ROAD INITIATIVE"	6．最初と最後の頁 22-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 NARA, Masashi	4．巻 6
2．論文標題 Autonomy in Movement: Informal Islamic Pedagogical Activities among Hui Muslims in China	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Deja Lu	6．最初と最後の頁 1-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門田岳久	4．巻 3号
2．論文標題 四国遍路の後背地：〈周辺〉から見る大師信仰と巡礼ツーリズム	5．発行年 2018年
3．雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6．最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 門田岳久	4．巻 20号
2．論文標題 フォト・エリシテーションを用いた教育と社会実践：宮本常一写真を通じた佐渡の開発／観光史研究から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 立教大学観光学部紀要	6．最初と最後の頁 40-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山中弘	4．巻 91
2．論文標題 消費社会における現代宗教の変容	5．発行年 2017年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 255－280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 内田純一	4．巻 97
2．論文標題 地方からのサービス・イiイノベーション創出～観光クラスターをめざす地域資源ベース戦略	5．発行年 2017年
3．雑誌名 NETT	6．最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計60件（うち招待講演　10件／うち国際学会　16件）

1．発表者名 山田義裕
2．発表標題 平和観光における「偶有性」と「連帯」
3．学会等名 国際シンポジウム「HIROSHIMAとピースツーリズム」、広島国際会議場（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Yamamura, Takayoshi
２．発表標題 Voices that Break Borders: Trans-National and Cross- Language Perspectives of Voice Actors as Idols
３．学会等名 American Anthropological Association 118th Meeting（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nara, Masashi
２．発表標題 Changes in Textbooks of Islamic Education and Entanglements of Ethnicity and Religiosity
３．学会等名 EAAA (East Asian Anthropological Association) Annual Meeting 2019, Jeonju University.（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nara, Masashi
２．発表標題 Entanglement of Islamic Missionary Activities and Islamophobia through Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China
３．学会等名 The IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2019 Inter-Congress, Adam Mickiewicz University.（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 金ソンミン
２．発表標題 Listening to Conflict: Yun Isang's Heritage for Peace in Tongyeong Tourism/平和遺産としての音楽（家）――作曲家尹伊桑と統営観光"
３．学会等名 International Research Conference Weaving Peace Through Heritage Tourism, International Conference Center Hiroshima（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 金ソンミン
２．発表標題 K-POPから考える日韓のポピュラー音楽空間における記憶と現在
３．学会等名 広島大学平和センター主催＜平和への記憶＞特別招聘講演、広島大（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 金ソンミン
２．発表標題 K-POPアイドル論
３．学会等名 「アイドル学連続講座」法政大学（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 金ソンミン
２．発表標題 「65年体制」と大衆文化－日韓文化交流論の批判的再検討
３．学会等名 ソウル大学日本研究所日本専門家招聘セミナー（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 NARA, Masashi
２．発表標題 A Change in the Ethnicity/Religiosity of the Hui People and Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China.
３．学会等名 International Symposium "Ethnicities in China and their Interaction with Global Society in the era of BELT and ROAD INITIATIVE" with Global Society in the era of BELT and ROAD INITIATIVE"（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 KIM, Sungmin
２．発表標題 Aidoru and ‘Idol’: Particularity and Universality of Japanese Popular Culture
３．学会等名 International Conference on New Frontiers in Japanese Studies, The University of Melbourne（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 金ソンミン・遠藤理一
２．発表標題 ツーリズムからみる戦後日本の平和主義Rethinking Postwar Japan’s Pacifism in Tourism
３．学会等名 島平和フォーラム：東アジアの冷戦景観と平和、済州（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山村高淑
２．発表標題 ファン文化とメディア～クリエイターとファン、ふたつのコンテンツ・ツーリスト～
３．学会等名 コンテンツ・ツーリズム研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山田義裕
２．発表標題 平和と人権と観光
３．学会等名 島平和フォーラム：東アジアの冷戦景観と平和、済州（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 金ソンミン
２．発表標題 検閲から考える尹伊桑と韓国
３．学会等名 尹伊桑生誕100周年記念シンポジウムー尹伊桑の「同時代」,東京大学駒場キャンパス（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 KIM, Sungmin
２．発表標題 Making the “Chord of Evil”: Struggles and Norms in South Korea’s Music Industry during the Cold War
３．学会等名 AAS 2018 Annual Conference, Washington, D.C. , U.S.A.（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 奈良雅史
２．発表標題 民族旅遊与族群性的変化：雲南紅河州回族社会的“接触地帯”
３．学会等名 International Workshop"現代中国的人口流動与族群関係"（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山村高淑
２．発表標題 日本における観光研究・教育の新潮流―コンテンツ・ツーリズムという概念・現象・政策をめぐって―
３．学会等名 『2017年應用外語國際學術研討會: 2017 International Conference on Applied Foreign Languages』, 台湾応用日本語学会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Masashi Nara
２．発表標題 Relationships between Religiosity and Ethnicity of Hui Muslims: A Change in Textbooks of Islamic Education in Yunnan Province, China
３．学会等名 East Asian Anthropological Association Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 KIM, Sungmin
２．発表標題 Rationalization of Music in Nation-Building
３．学会等名 Third “Memory in East Asia” Workshop “Memory of Music in South Korea and Japan,” Vevey & Lausanne, Switzerland（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 KIM, Sungmin & Luli van der Does-Ishikawa
２．発表標題 Exploiting Empowerment: Gendered songs of wartime Korea and Japan 1910-1945
３．学会等名 Third Workshop of The European Forum on Korean-Japanese History Gender(ed) Histories of Korea and Japan, University of Tubingen, Germany（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡本亮輔
２．発表標題 フィクションが作る聖なる場所―聖母出現、パワースポット、アニメ聖地―
３．学会等名 関東社会学会テーマ部会Ａ「現代都市における〈場所性〉・再考」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡本亮輔
２．発表標題 偽物が作る本物の場―青森キリストの墓を中心に―
３．学会等名 公開シンポジウム「巡礼と聖地―その伝統と現代―」舞鶴高専COCプログラム（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計13件

１．著者名 OKAMOTO, Ryosuke	４．発行年 2019年
２．出版社 出版文化産業振興財団	５．総ページ数 176
３．書名 Pilgrimages in the Secular Age: From El Camino to Anime	

１．著者名 金ソンミン	４．発行年 2019年
２．出版社 ソウル大学日本研究所Reading Japan叢書	５．総ページ数 69
３．書名 韓日/大衆/文化――「1965年体制」をこえて	

１．著者名 石森大知・丹羽典生編（奈良雅史：291-326担当）	４．発行年 2019年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 448
３．書名 宗教と開発の人類学：グローバル化するポスト世俗主義と開発言説	

１．著者名 西川克之・岡本亮輔・奈良雅史編	４．発行年 2019年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 348
３．書名 フィールドから読み解く観光文化学：「体験」を「研究」にする16章	

１．著者名 奈良雅史（10章担当）、ヴァレン・Ｌ・スミス著、市野澤潤平、東賢太朗、橋本和也監訳、	４．発行年 2018年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 468
３．書名 ホスト・アンド・ゲスト	

１．著者名 金ソンミン	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 256
３．書名 K-POP ： 新感覚のメディア	

１．著者名 KIM, Sungmin	４．発行年 2018年
２．出版社 Kul Hangari; Seoul	５．総ページ数 255
３．書名 A Small History of K-POP	

1．著者名 Takehisa Kadota（Johannes Moser 編）	4．発行年 2018年
2．出版社 WAXMANN	5．総ページ数 416
3．書名 Themen und Tendenzen der deutschen und japanischen Volkskunde im Austausch（担当箇所： "Spirituelle Touristen und profane Pilger: Zusammentreffen von Religion und Tourismus an einem japanischen Kulturerbe"	

1．著者名 奈良雅史（共著）	4．発行年 2017年
2．出版社 風響社	5．総ページ数 550
3．書名 フィールドワーク―中国という現場、人類学という実践	

1．著者名 奈良雅史（共著）	4．発行年 2017年
2．出版社 中国社会科学出版社	5．総ページ数 385
3．書名 “俗”与“聖”的文化実践	

1．著者名 KIM, Sungmin	4．発行年 2017年
2．出版社 Kul Hangari; Seoul	5．総ページ数 259
3．書名 Banning Japan―The History of Korean Popular Culture between prohibition and Desire, 1945-2004（韓国語）	

１．著者名 門田岳久（飯田卓編）	４．発行年 2017年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 376
３．書名 文明史のなかの文化遺産	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡本　亮輔 (Okamoto Ryosuke) (30747952)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	清水　賢一郎 (Shimizu Kenichiro) (90262097)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・教授 (10101)	
研究分担者	金　ソンミン (Kim Sungmin) (60600426)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	山村　高淑 (Yamamura Takayoshi) (60351376)	北海道大学・観光学高等研究センター・教授 (10101)	
研究分担者	奈良　雅史 (Nara Masashi) (10737000)	国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授 (64401)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山中　弘 (Yamanaka HIroshi) (40201842)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	内田　純一 (Uchida Junichi) (40344527)	小樽商科大学・商学研究科・教授 (10104)	
研究分担者	門田　岳久 (Kadota Takehisa) (90633529)	立教大学・観光学部・准教授 (32686)	